

# 響きあい

Vol.10

令和二年一月  
冬号

みんなの「生きる」を  
社会福祉法人



老人福祉施設カリヨンの郷

施設長 早川直也

新年おめでとございます。  
本年もよろしくお願い申しあげ  
ます。

仕事を変わってから二十一年が経  
過し、特に印象に残ったこと

◇ ◇ ◇

これまで、経験をしてきた仕事（幼  
児教育を身近に見ることができた  
職場）と比べ、ある意味大きなショ  
ックを受けたこととして、これまで  
は経験や年齢を重ねることで「常に  
獲得・獲得」の世界から、今日出来  
ていたことが、明日は出来なくなる  
環境では、極論は明日の命すら保  
証がない世界で、同じような対人援  
助の「人と関わる仕事」でも、これ  
ほど大きな違いがあることに大き  
なショックを受けました。

幼児教育の世界では、常に前進  
することがあたりまえで、今日でき  
なかつたことが明日は出来るよう  
になるなど、常に前進する環境か  
ら、老人福祉の世界では、昨日より  
今日が出来なくなるなど、毎日が  
「失うことが」多い世界で、本当に  
戸惑いました。極端な例では、昨日

元気であった方が今日亡くなる  
場合も日常的にあり、私自身もそ  
うですが、年齢を重ねると今まで  
出来ていたことが出来なくなる  
など、この喪失感は耐え難いもの  
です。

また、残念なことに、年を重ね  
ると頑固さと、今までの経験値で  
しか判断の仕様がなく、このこと  
も若者に煙たがられる理由の一  
つかもありません。また、重ねて  
柔軟な対応が出来ないことも、こ  
の点も同じ理由の一つでしょう  
か？。

◇ ◇ ◇

子どもたちの可能性は無限で、  
同じことを書きますが、今まで出  
来なかつたことが、今日や明日に  
は出来るようになり、同じ人との  
関わる仕事でも、褒められること  
が多い子ども時代は、褒められる  
ことの楽しさがそれぞれの成長  
を促します。すべての人が通る道  
ですが、これからの時代はどのよ  
うな道を進むのでしょうか？。

特に、子どもたちと高齢者との  
触れあう場面では、本当に楽しそ  
うに関わることに現れています。

